

7月号

七夕のお願い

校長 桐ヶ谷 淳子

学校 だより



大和市立草柳小学校
大和中央3-6-1

1学期も残すところあと1か月となりました。新型コロナの感染状況は依然として収束の目途が立たず、東京では早くもリバウンドが懸念されています。毎日2回の検温や、健康観察チェックシートの提出等、保護者の皆さまのコロナに係るご協力のおかげで、今のところ学級閉鎖等もなく、子どもたちは学校での生活を送ることができています。今後も教育活動の継続と感染防止対策に努めていきたいと考えています。

今年も草柳コミセンの方から七夕の笹をいただく予定です。七夕は古くから行われている日本のお祭り行事の一つです。秋の豊作を願ったり、人々の穢れを祓(はら)ったりするために、着物を織って棚に供えた日本の神事と、7月7日に織女星にあやかって、裁縫の上達を祈った中国の「乞巧奠(きこうでん)」という行事が合わさったものだという説があります。また、この神事の際に布を織る機械を「棚機(たなばた)」と言いました。

学校でも、教室や職員玄関に笹を飾り、子どもや先生たちが思い思いの願い事を短冊に書きます。昨年は新型コロナの収束を願う内容が多かったことを学校だよりで紹介しました。その時は、来年はこんな願い事を書かずに済むようにと思いましたが、今年も昨年と状況は変わりません。不安や閉塞感が社会全体を覆っていますが、こんな時だからこそ、冷静さや落ち着きが求められるのだと思います。

三密を避けること、手洗いの励行に努めること等の行動の基本を確認しながら、子どもたちの健康を見守っていききたいと思っています。

昨年は春の一斉臨時休業や分散登校で、授業時数の確保や、学習内容の履修に苦労した1年でした。コロナ禍にあっても学校は子どもたちの「知識・技能」の習得や「思考力・判断力・表現力」の向上に努めなければなりません。今年度は朝の15分の時間帯を有効に使い、国語の基礎基本の定着をめざしています。



朝学習の様子

「知識・技能」の習得と「思考力・判断力・表現力」の育成は車の両輪に例えられます。漢字の学習では、一つの漢字の複数の読み方や意味、用法までを学習することで、その漢字や熟語を使って作文を書いたり、意見を発表したりすることができます。日常で使うことができはじめて、知識や技能は子どもの力として定着したといえます。つけたい力を明確にした授業が展開されるよう、教材研究や授業改善に取り組んでいかなければと考えています。

七夕は「しちせき」とも読みます。なぜ「たなばた」と読むようになったかは、前述したとおりですが、そんな語の由来がわかると文化そのものの理解も深まるような気がしています。

今年の短冊にはどんな願い事が書かれるのかわかりませんが、「コロナの収束」が今や世界中の人々の切なる願いであることは確かです。